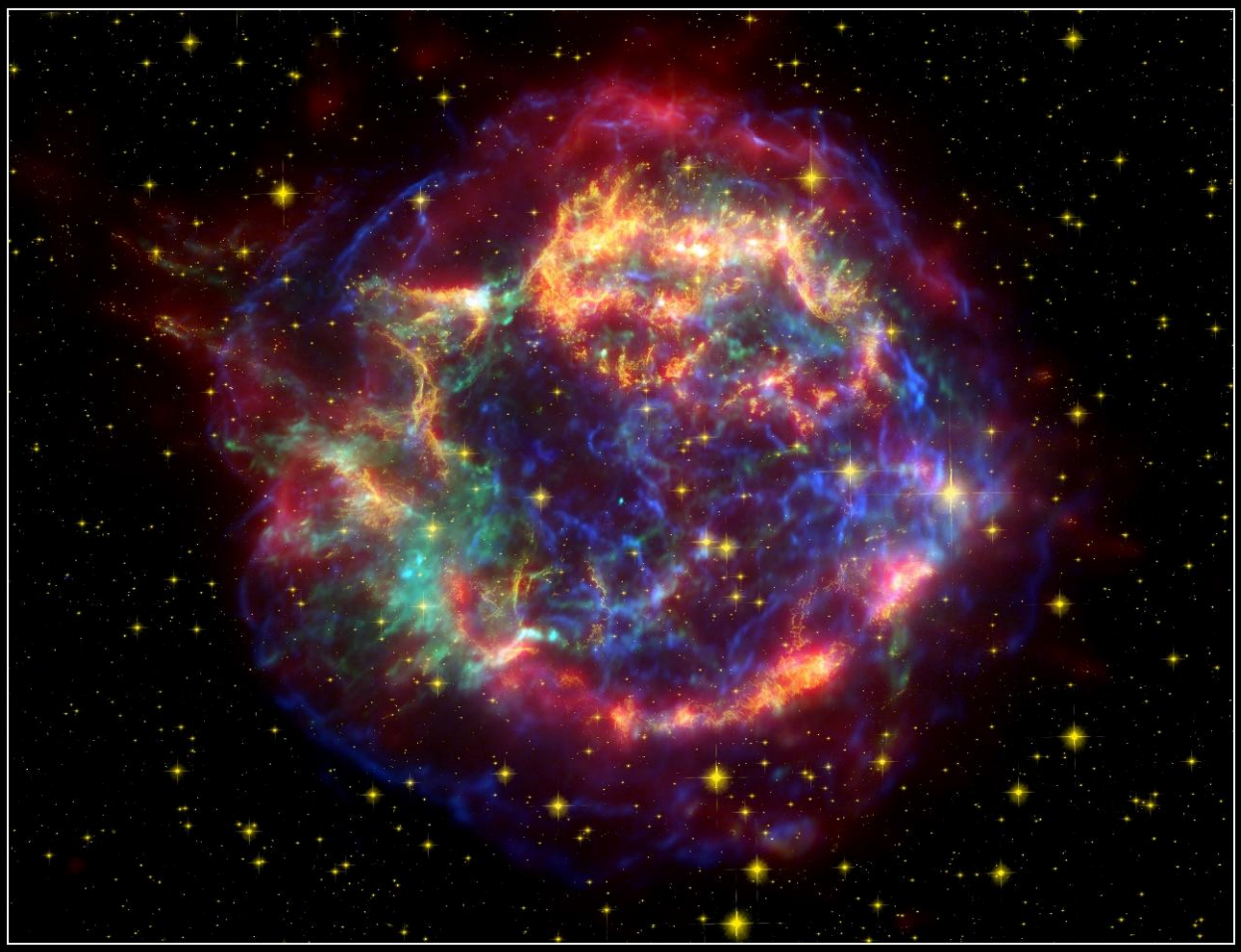
天文教育　2009 年 3 月　Vol.21 No.2 通巻 97 号（奇数月 25 日発行）　平成 13 年 7 月 5 日第 3 種郵便物認可　ISSN 1346-616X

天文教育

2009 3

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



Cassiopeia A Supernova Remnant
NASA / JPL-Caltech / O. Krause (Steward Observatory)
ssc2005-14c

Spitzer Space Telescope • MIPS
Hubble Space Telescope • ACS
Chandra X-Ray Observatory

＜特集＞　世界天文年 2009

＜連載＞　最新宇宙誌 /　天プラの挑戦 / 恒星天文学の源流

天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで 6～10 ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで 2～4 ページ程度。
4. **書　評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで 1 ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで 1 ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと 400 字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・**締め切り**は 1～3 は原則として奇数月末日、4～7 は偶数月 15 日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・**広告掲載**を希望される方は事務局（jimu@tenkyo.net）までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

※本誌に掲載された記事は、1 年後以降に当会ホームページ（http://tenkyo.net/）にて pdf ファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合はご投稿の際にその旨ご連絡ください。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。

・執筆用のテンプレートがホームページ（http://tenkyo.net/）からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いします（執筆上の留意点なども記しています）。

・充分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。

・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。

・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。

・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先　メールアドレス：**post@tenkyo.net**，FAX：0566-26-2624

表紙の言葉

超新星残骸カシオペアＡ

カシオペア座にはこれまでに1181年と1572年の2回の超新星出現の記録があります。このうち後者はティコの超新星といわれるものです。しかし実は記録にはありませんが1680年ころにも起こっているはずで、その残骸がカシオペアＡです。この超新星が当時なぜ見えなかったのかについては2004年11月号の特集記事でも取り上げられていますが、一昨年詳しい観測がなされその謎が解明されました。

この画像はHubble(可視光)　Chandra(X線)　Spitzer(赤外線)という3大宇宙望遠鏡で撮られた画像を重ねあわせたものです。可視光で見えるのは上部のフィラメント構造で、星雲の大部分はダストに覆われています。そのダストによる淡いエコーがこの天体の謎を解く鍵を握っていたのです。

詳しくは70ページの記事をお読みください。そして文末に記されているクイズにチャレンジしてみてください。　　**作花一志（京都情報大学院大学）**

画像元URL

http://heasarc.gsfc.nasa.gov/docs/objects/heapow/archive/nebulae/casa_composite.html